

第 2 回 環境保全型農業推進コンクール受賞事例の取組概要

大賞（農林水産省大臣賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取 組 概 要
らいでん青果物生産出荷組合 【北海道岩内郡共和町】			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 30 年代後半よりスイカ・メロン栽培が導入され、産地として確立されていたが、栽培年数の経過により、地力低下や連作に起因する「つる割れ病」の発生が顕在化した。このため、「ねぎ混植法」を取り入れ（平成 7 年度 スイカの全面積、メロンの 9 割）耕種の防除によって薬剤防除の抑止を実現している。 ・土づくりに関しても、収穫後の緑肥作物作付（えん麦・ソルゴ）やバーク堆肥による減化学肥料の推進、深耕・客土・生育ステージに応じた肥培管理を実施している。 ・また、クリーン農業の活動や子供会による農業体験学習の受け入れ、消費者団体・市場関係者との交流等積極的に展開している。
角田市農業協同組合 【宮城県角田市】	米 小粒大豆	8 0 0 ha	<ul style="list-style-type: none"> ・1970 年より生協との産直を開始し、消費者との交流の中から、産直品目の拡大と土づくり、農薬削減運動等を積極的に展開し、安全でおいしい農畜産物の生産、供給に取り組んできた。 ・農家、消費者、JA、生協で産直品目の共同開発及び普及、生産方法、価格等が月 1 回協議されている。又、プロジェクトチームで農産物の生産に関する技術の検討が常になされ、農薬使用基準の見直し、化学肥料使用低減の検討を行い、各品目毎に栽培基準を設定している。 ・JA が生協に加入し、ゴミの節減運動、牛乳パック回収運動など農家だけでなく市民を巻き込んだ運動を展開している。さらに 1992 年「国際食シンポジウム in 角田」を開催し、市民と一体となり環境保全型農業の推進に取り組んでいる
三芳村生産グループ 【千葉県安房郡三芳村】	米 野菜	1 . 2 ha	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間農業地域であるが、温暖な気候条件を生かし、1973 年グループを設立以来 24 年間にわたり農薬や化学肥料を一切使用しない無農薬無化学肥料の露地栽培を行っている。 ・栽培技術面では、自家飼養の鶏糞、稲わら、落ち葉など地域の資源を活用した自家製肥料を利用した「土を生かす」土づくりと旬を大切にした露地栽培を行っている。 ・集落 28 戸の内、27 戸が有機農業の専業経営であり、生産品目は年間 1 農家で 50～60 種類と少量多品目栽培である。 ・生産グループの生産物はすべて東京の消費者団体の「安全な食べ物を作って食べる会」の会員に直接配送されている。会員 111 名で発足したが、現在 1000 名となっている
三方町 【福井県三方郡三方町】			<ul style="list-style-type: none"> ・町が強力なリーダーシップを発揮し、三方五湖の水質改善に対する町民全員の意識改革を図り、補助事業等を活用して水質浄化を実践している。 ・農業生産面からも肥料・農薬を流出させない取り組みを行っている。特に、湖に人工の筏を浮かべ、アシを植栽し、窒素、リンを吸収させ、それを刈り取り梅園の敷草に利用し、雑草の防止、肥料養分の流出防止と梅園の表土流失防止を確立した独創的な技術を行っている。 ・カントリーエレベーターから排出される籾殻を利用した籾殻堆肥による土づくりを推進している。
青山町農協無農薬米生産部会 【三重県名賀郡青山町】			<ul style="list-style-type: none"> ・本生産部会は、昭和 52 年から消費者グループとの交流による無農薬米、低農薬米の生産活動を行っている。 ・部委員は、耐病性品種の選定、地区内酪農家の堆肥と有機質肥料による施肥設計、農薬使用の禁止・制限により、農薬を一切使用しない無農薬米と除草剤 1 回使用の低農薬米を生産している。 ・土づくり、水管理、栽培水田区の団地化、施肥量の適正化などを励行している。また、「部会規約」を作成し、規約を守らない時は除名という厳しい態度で接している。 ・当部会の取り組みを契機に、町では安全食品への取り組みや水源保全運動も始まり、さらに環境保全型農業推進方針を県下に先駆けして制定している。

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取 組 概 要
淡路花き組合連合会 カーネーション部会 【兵庫県津名郡津名町】			<ul style="list-style-type: none"> ・試験研究機関、普及センターの指導を得ながら地域特産品であるカーネーションの花蕾や葉を食害するオオタバコガ、シロイチモジヨトウの防除に総力をあげて取り組んでいる。 ・当初、既存の農薬散布やフェロモン剤の設置を行ったが防除出来なかったため、新技術として黄色蛍光灯の導入を推進した。その結果、蕾への産卵率（無点灯区の1/4）、ヨトウの幼虫による葉への加害（無点灯区の1/7）は大幅に減少し、薬剤費や散布労力も減少したことから部会員の7割（170戸、27ha）に普及した。 ・本部会が中心となり地域の園芸用ビニールフィルムの回収、土壌分析や畜産農家との連携による土づくりなど環境保全型農業に総合的に取り組んでいる。
鳥取市大和地区村づくり会議 【鳥取市】			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和61年に設立され、水稻の元肥の削減、油粕を主体とした有機質肥料の施用、再生紙マルチの利用、安全性を考えた粒剤中心の病害虫防除、発生予察に基づく必要最小限の防除を実現している。 ・鳥取市の認証基準による野菜の無農薬栽培が行われており、畜産農家との連携、生ゴミの堆肥等リサイクルにも取り組んでいる。 ・また、女性が中心となって洗剤学習などにより健康、環境保全への意識改革を進めるとともに、ふれあい市による消費者との交流など、当会議の取り組みは地域ぐるみの幅広いものとなっている。
和泊町 【鹿児島県大島郡和泊町】			<ul style="list-style-type: none"> ・和泊町は島しょ部にあり、飲料水を地下水に依存し、近年は花き等の集約栽培が盛んな農家を基幹産業とした町である。 ・地下水への肥料や農薬の影響を懸念して平成4年から約2年間、町独自で環境影響調査を実施し、その結果を踏まえて平成6年3月に環境保全と生産性の維持・向上が調和可能な農法の確立と農業の振興と健康で文化的な生活の確保を目的とする「和泊町環境保全型農業の推進に関する条例」を制定した ・現在、条例に基づく環境保全型農業推進委員会の設置や啓蒙活動部会、技術実証部会などの活動が活発に行われている。

優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取組概要
なかぶらのクリーン米生産協議会 【中富良野町市街】			<ul style="list-style-type: none"> ・全戸の水稲栽培農家が有機質の投入による「土づくり」と捕虫網の配布による発生予察を行っている。除草剤使用は1回にとどめるとともに、生産管理野帳の記帳と提出を義務づけている。 ・JA・町・普及センターによる支援・指導体制のもと、地域的な広がりをもって組織的にクリーン農業に取り組んでいる。
遊佐町共同開発米部会 【山形県飽海郡遊佐町】			<ul style="list-style-type: none"> ・減農薬、土づくり等栽培基準が明確であり、生協と20年余の産直交流が続いている。生産者と消費者が共同して開発して「遊you米」は全量契約栽培である。機関誌「遊you米News」で消費者と情報交換を行い、生産者と消費者の双方で共同開発米の基金制度も発足させている。
あがつま農業協同組合 北軽井沢産直部会 【群馬県吾妻郡長野原町】	きゃべつ レタス はくさい他	554ha	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロモン剤の積極的な導入及び耕種農家と畜産農家の連携による飼料用耕作地との交換耕作を含めた「輪作体系」の確立。 ・農業用廃ビニールのリサイクル等環境保全型農業がバランス良く取り組まれている。
敷島町平見城地域 【山梨県中巨摩郡敷島町】	乳用牛 肉用牛		<ul style="list-style-type: none"> ・家畜糞尿処理施設を積極的に導入し、畜産団地特有の悪臭やハエ対策を行い、できた堆肥は耕種農家に供給している。また、県試験場と連携しワイン製造の際の残さであるブドウ粕や豆腐粕の配合飼料を作り、リサイクルを実施している。
上野新農業生産組合 【新潟県岩船郡関川村】	米 ネギ だいこん	456ha	<ul style="list-style-type: none"> ・減農薬・減化学肥料栽培により野菜を栽培し、ガイドライン表示をするとともに、小袋単位で地元の市場に出荷するほか、市民生協にいがた、学校給食にも販売しており、拡大意欲が高い。また、ハム・モチ加工を行い、消費者との販売組織を通じて販売するなど積極的な消費者との交流を行っている。
かつらぎ町農業協同組合 【和歌山県伊都郡かつらぎ町】			<ul style="list-style-type: none"> ・当町は、県内屈指の柿、桃など落葉果樹の産地である。難防除のコスカシバ、ヒメコスカシバの防除に性フェロモン剤を166haと広範囲に設置し大きな効果を上げている。このような取り組みにより、紀北地域の他の落葉果樹産地に大きな影響を与えている。
上組営農実行組合 【岡山県川上郡川上町】			<ul style="list-style-type: none"> ・組合独自で開発した堆肥等で土づくり、病害虫対策として多発時期を避けた栽培体系の確立、耕種技術を中心とした病害虫防除技術の研究・利用に取り組んでいる。当組合の活動が他の農家に影響を与え、有機農産物を生産する多くの集団が結成されている。
矢部町野尻地区 【熊本県上益城郡矢部町】			<ul style="list-style-type: none"> ・アイガモを利用した水稲の有機栽培栽培が集落全農家参加のもとに実施され、これを契機として集落の連帯感と生産組織活動が達成された。 ・イベント等を通じ環境保全型農業の消費者の理解を促進しており、また、後継者が多く地域が活性化している。

優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取組概要
小西 大三郎 【夕張郡長沼町】			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 45 年から減農薬栽培を開始し、平成 3 年から水稻全面積を無化学肥料・無農薬栽培に移行しており、現在は特別栽培米の提携消費者は 160 戸となっている。 ・技術的には、土づくりを基本とし、客土、ボカシ肥料、堆肥の投入、不耕起栽培、輪作である。
青森県横浜町 【青森県上北郡横浜町】			<ul style="list-style-type: none"> ・基幹作物（馬鈴薯、長芋、人参）の輪作体系にナタネを導入して連作障害を回避している。ナタネの栽培面積は現在日本一（203ha）で無農薬栽培である。また、ナタネを町おこしのシンボルとして地域ぐるみの取り組みになっている。
農事組合法人 茨城県西産直センター 【茨城県結城郡八千代町】	米 野菜		<ul style="list-style-type: none"> ・地域有機資源リサイクルシステムによる土づくりや緑肥作物の導入、太陽熱消毒の励行、マリーゴールドの作付けによる有機栽培、減農薬栽培を推進し、「安全で安定した食料は日本の大地から」をスローガンに有機農産物を中心に産直活動を実施している。
有限会社 新鮮農場 【愛知県大府市吉田町】			<ul style="list-style-type: none"> ・当会社は、専業農家 22 戸から構成され、減農薬・無化学肥料による野菜づくりを行うとともに、農産物直売所「おはよう君」を開設・運営し、構成農家一戸当たりの平均販売額 1300 万円を実現している。また、畜産農家と協同出資して堆肥場を作り土づくりに努めている等環境保全型農業を展開している。
美山町コンテナ産直グループ 【京都府北桑田郡美山町】			<ul style="list-style-type: none"> ・本グループは、地元養鶏農家の鶏糞利用によるリサイクルの実施、転作田を活用した緑肥栽培（レンゲ等）により「土づくり」と「合理的な輪作体系」の推進を図っている。また、「コンテナ産直」による無農薬野菜を 16 カ所の産直ステーションに出荷し消費者ニーズに応えるとともに、地域のイベント等に積極的に参加している。
柿木村健康と有機の里づくり 実行委員会 【島根県鹿足郡柿木村村】			<ul style="list-style-type: none"> ・椎茸の菌床の廃材を利用した土づくり、上流と下流との連携による化学肥料や農薬を使用しない運動、消費者による授農、農業体験学習を通じた交流が行われている。また、若者が中心となって始めた有機農業の取り組みが村ぐるみの取り組みに発展し、地域の活性化が図られている。
平生町 【山口県平生町】			<ul style="list-style-type: none"> ・町が魚残さ等を活用した堆肥、土壌改良資材を供給しており、有機物を主体とした土づくりが行われている。また、「平生町有機農産物ガイドライン」を制定し、米、みかん等 28 品目の栽培暦を作成し、化学肥料・農薬を削減した栽培方法による展示ほの設置、講習会の開催、各種イベントの開催等地域の活性が進められている。
七山村 【佐賀県東松浦郡七山村】			<ul style="list-style-type: none"> ・農家、村、農協、普及センターが一体となって農産物の産直所を中心に有機・無農薬野菜および稲作栽培などに取り組み、地域内に面的に普及・拡大させている。また、小学校の学級農園で有機・無農薬野菜栽培を指導し直売所で販売したり、交流イベントや水環境づくりの取り組み等幅広い活動が展開されている。

奨励賞

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取組概要
幌美地区契約野菜出荷組合 【北海道】			・農水省ガイドラインに基づくレタスの減農薬栽培（散布回数は、3回以内と慣行比50%以内）を行っている。又、堆肥、魚粕、骨粉等の使用を義務付け土づくりに努めている。
ながめま農協自然農法研究会 【北海道】			・現在10名の会員で米を中心に生産し、作付け面積は、無化学肥料・無農薬の自然農法が1155a、除草剤のみ使用する無化学肥料・減農薬が600aで行われている。
北上市農協有機米生産者協議会 【岩手県北上市】	米		・稲作と畜産の複合経営農家を選定し、堆肥の施用を基本とした土づくり、適正な農薬使用を含めた一定の栽培基準を設定している。
琴丘町農業協同組合 有機米協議会 【秋田県】			・有機質による土づくりを基本に、無人ヘリコプターや側条施肥等の技術対策により、減農薬・減化学肥料で排水の汚染を防止している。又地域の畜産糞尿処理やカントリーの粉ガラ等の廃棄物をリサイクルするシステムを確立。
本宮町堆肥センター運営組合 【福島県】	米	420ha	・安全・高品質な農産物の生産振興と畜産農家の畜産公害の解消を目指し、豚糞と籾殻に浄水場の脱水污泥ケーキを混入した新しい堆肥づくりを行っている。
MOA自然農法那須黒羽産地支部 【栃木県】	米 大麦	16ha 5ha	・消費者との直接的な交流の中、家畜糞尿を土づくりと減農薬栽培を中心とした土地利用型作物の生産を行い、販売は消費者への産直販売が主である。
川越地域生協出荷組合 【埼玉県】	ほうれんそう だいこん	140ha	・農水省のガイドラインの徹底を全ての生産者が行っている。土づくり減農薬新品目部会を設置し、落ち葉堆肥等で土づくり運動展開、又、マリーゴールド等の栽培を義務付け健全な土壌状態を確保している。
西市民生協八王子ファーム 【東京都】			・無農薬、減農薬栽培及び減化学肥料栽培の農産物づくりを行い、畑から収穫したままの状態で出荷し、調整作業労力を省いている。出荷は生協との契約栽培。
横須賀長井有機農法研究会 【神奈川県】			・有機農業の完全実施を目指して、研究会で6つの申し合わせ事項を決め、県指導機関やJAと連携し堆肥、緑肥作物、土壌診断、病害虫防除等を積極的に実践している。
佐久市農業協同組合 【長野県】	ミニトマト	420a	・水田養魚による農薬の使用を最大限に抑えた稲作（平成7年度より無農薬による米づくりに実験的に取り組んでいる）また、転作田を利用したミニトマトの減農薬栽培を実施している。
全国MOA自然農法産地支部 連合会大仁農場 【静岡県】			・土壌診断に基づく各種有機質肥料の施用、畜産農家との連携による家畜排泄物の堆肥化で土づくりの実施。土壌病害虫への対抗植物の導入や天敵の利用等による減農薬による農産物生産を実施している。
MOA自然農法城端支部 【富山県】	米 さつまいも	670a 20a	・土づくりを基本に、無農薬・無化学肥料による有機米の栽培を実施している。除草対策は、深水管理を基本に木酢液や米酢の施用と除草機の組み合わせ。
中島 昭夫 【石川県】			・不耕起による省力と深水栽培、コイによる除草及び有機肥料による追肥を組み合わせた不耕起栽培を実施している。
岐阜市農業協同組合 【岐阜県】			・水稻において、有機質肥料による施肥、慣行の2分の1程度に抑えた病害虫防除を基本とした減農薬・無化学肥料による減農薬栽培を実施している。生産された米は、農協直営店で特別表示米として販売している。
栗東有機栽培グループ 【滋賀県】			・馬糞堆肥と有機質肥料の投入による土づくりを実施している。また、生協との契約により、土壌消毒剤の不使用、殺虫剤は害虫の発生時1～2回使用等農薬の使用を制限している。
橿原市グリーンアスパラ研究会 【奈良県】			・アスパラガスの減農薬栽培を目指し、病害虫対策として、ハウスサイドの防虫ネット、フェロモントラップの設置等耕種的防除を実施している。また、地域内資源のリサイクルを図るため、県内産の牛糞堆肥を利用した土づくりの実施。

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実績面積	取組概要
福山わかつちの会 【広島県】			・有機質の施用による土づくりを実施し、農薬・化学肥料等化学合成資材を使用しない水稲、野菜の栽培を実施している。また、生産者と消費者が作付け会議を実施している。
J A大俣 【徳島県】			・家畜糞尿処理施設を地区内5カ所に設置し、良質な発酵堆肥を生産し、耕種農家へ良質な有機資材として供給し土づくりを実施している。
大峯 正敏 【香川県】			・山間地の「千枚田」で湧水を利用し、食味と安全性にこだわった水稲栽培を行っている。農薬は除草剤のみ使用している。
うま農業協同組合特産部会 【愛媛県伊予三島市】			・地位特産野菜（里芋、山の芋）の連作障害を解消するため、ダム堆積土砂の客土による土づくりを実施している。また、支柱栽培による農薬使用量の削減にも努めている。
西土佐村 環境保全型農業推進協議会 【高知県西土佐村】			・四万十川の清流保全のため、生活排水や畜産排水等総合的、長期的な取り組みを織り込んだ「清流保全施策実施計画」を策定・実施している。地域内のモミガラと鶏糞、し尿を原料とした堆肥を製造し土づくりを実施している。
三橋町沖田地区有機農業の会 【福島県三橋町】			・耕種農家と畜産農家との連携により、稲ワラと堆きゅう肥の交換を行う有機物の有効利用、土づくりで有機減農薬栽培を実施している。また防除は「虫見板」による適宜調査で、要否について判断している。
佐々町合鴨農法研究会 【長崎県佐々町】			・化学肥料、除草剤、農薬を全く使用しない合鴨農法による水稲栽培を実施している。
大口田特別栽培米生産集団 【大分県安心院町】			・堆肥センターの堆肥投入による減農薬栽培として特別栽培米を生産している。
有限会社 延岡地区有機肥料センター 【宮崎県延岡市】			・センターは、地域の主産業である畜産からの糞尿及び鮮魚小売店からの魚腸骨、学校給食の残飯等を活用し堆肥を製造し、耕種農家へ供給している。家畜排泄物の回収は、各畜産農家へ密閉コンテナを配置し巡回、回収している。
宮古郡農協青壮年部 【沖縄県平良市】			・生活飲料水や農業用水の殆どを地下水に頼っており、地下水は重要な資源である。基幹作物のサトウキビの施肥基準の見直しによる施肥改善の実施、緑肥栽培による土づくりを実施

特別賞

生活クラブ事業連合生活 協同組合連合会			対応事例：青森県横浜町 ・産地との結びつきにより、国内自給率を高める運動や農薬・化学肥料に頼らない持続的農業に対する支援を幅広く実践。平成3年に横浜町との連携のもと国産のなたね油を生産。又、本年度交流会を実施し、生産状況の視察や意見交換を実施。
みやぎ生活協同組合			対応事例：青森県横浜町 ・産地との結びつきにより、国内自給率を高める運動や農薬・化学肥料に頼らない持続的農業に対する支援を幅広く実践。平成3年に横浜町との連携のもと国産のなたね油を生産。又、本年度交流会を実施し、生産状況の視察や意見交換を実施。
安全な食べ物をつくって食べる会			対応事例：千葉県三芳村生産グループ ・生産者との交流会を大切にし、授農活動を年間を通じて実施。生産物の全量引き取り、生産者価格の尊重という基本方針で共同購入。